

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2073100220		
法人名	医療婦人 あさま会		
事業所名	グループホーム サンタクロース		
所在地	長野県埴科郡坂城町坂城6986 - 1		
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果市町村受理日	平成22年6月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2073100220&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成22年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者のご希望を優先的に考え、可能な範囲で対応している。
日常的に買い物や散歩の機会を設け、外気浴や買い物に対する希望、気分転換などを行っている。また、スタッフのほとんどが看取り経験もあり、ご本人・御家族・医師と相談の上、終末期のケアも受け入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

早出・日勤・遅出勤務者以外にフリーの勤務者を1名配置し、買い物・散歩など通常の3名勤務では充分に出来ないこと、緊急時での手不足の対応など、昼間の勤務状態を厚くして、利用者の思いに充分答えられる対応をしている。又、夜間は緊急時対応者1名を自宅待機の形で配置し、不測の事態に備えている。平成21年度には職員アンケートを行い、日頃の管理者等への思いや理想とするグループホームの在り方など職員の「今」の思いや意見を引き出し運営に反映させている。管理者と職員の協働により事業所を作って行こうとする姿勢が窺え、又、身体拘束しない対応、重度化や終末期への対応など利用者の心に寄り添い、人権や尊厳に常に配慮した辛抱強い、真摯な姿勢が感じられた。全国グループホーム協会ケア研究会の様式を活用した、分かり易い介護計画の取り入れは良い試みであり、取り組み当初の戸惑いは理解できるが、時間と共にその良さが実感出来るものと思われる。自主事業として行っている空所利用の一時預かり(デイ・ショート)の対応は地域ニーズに前向きに答え、地域と共に歩む事業所の積極的な姿勢が感じられた。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1F)			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
ユニット名(2F)					
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		○ 3. 利用者の1/3くらいが			○ 3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		○ 3. たまにある			○ 3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		○ 2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 職員の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		○ 3. 利用者の1/3くらいが			○ 3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		○ 2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		○ 2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフのスローガンを「笑顔・安心・安全・家庭的」とかけ、共有の理念を持っている。	安らぎと喜びのある毎日、安心と共に尊厳のある暮らし、住みなれた土地で自立して暮らす、という法人の理念を実現しつつ、事業所独自の理念を職員アンケートの中から職員と共に作り上げ、機会ある毎に共有化を図りながら、日々実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、散歩などの日々の交流はもとより、運営推進会議などを通じ、地域行事や近隣の学校の学園祭などへの参加なども行っている。	自治会に加入し、町や地区の行事に参加すると共に、保育園や近隣の高校の行事に招待されたり、日々の散歩や買い物の際の挨拶や野菜等のお裾分けを頂くなど地域との親しいつきあいをしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ出てゆく機会を増やし、交流を図ることで事業所の活動を知って頂けるよう努めている。また、運営推進会などでも議題にあがっており、今後の活動に取り入れて行きたいと考えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催の都度「活動報告」を行い、意見・要望を伺い、可能な範囲で取り入れている。また、入居者の近況や行事の様子などを書いたホーム新聞を配布し、「今後も続けて欲しい」などのご要望を頂いている。	地域や行政の参加の下、21年度は3回開催し、評価や活動状況を報告し、行事の際の利用者の素直な思いや様子を伝えるホーム新聞を配付して、事業所のありのままを理解して頂けるよう努めている。意見や要望は少ないが、常に真摯に受け止め、サービス向上に活かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回程度行政に伺い、担当者との情報交換を行っている。	町にグループホームが当事業所だけであり、行政からの期待もあり、事業所も積極的に行政との接触を行い、良好な関係を作っている。地域密着であるので、町だけで定員18名の利用者を常に満たすことが困難な場合もあるので、さらなる相互の理解と協力関係を築くことを望みます。		

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠など、防犯上の対策以外、身体拘束は行っていない。これについても、外出の機会を増やしたり、夏場の暖かい日には玄関を網戸にするなど、出来るだけ開放するよう努めている。また、対応の困難な方についても、スタッフで話し合い、身体拘束に当たらないケアを心掛けている。	利用者の人権や尊厳を守ることがケアの基本であることを職員の共有認識とし、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。骨折、再入院のリスクを考慮しながら、拘束のないケアに辛抱強く取り組んでいるケースのあることを伺い、利用者の尊厳や誇りの保持への配慮の大きさが感じられた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の身体状況や置かれている状況についての把握に努め、対処方法などをスタッフ全員で考え、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、ご家族や関係者と話し合う場を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り意見・要望を伺い、理解と納得の上で入居して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族面会時には、極力、スタッフから声を掛ける様努めている。また、入居の際、「重要事項説明書」記載の外部の窓口の紹介・説明を行うなどしている。また、運営推進会議などにおいても、意見を求めている。	行事の様子を伝えているホーム新聞の年5回の発行や面会時の十分な説明、ケアプラン等の随時の連絡などにより、ご家族との信頼関係を築いて、意見や要望を言い易い環境作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、及び個別の面談の機会を設け、意見・提案を聞くように努めている。	職員会議やミーティングの際に管理者に意見や要望を言える機会を設けている。法人としても年1回契約更新時の話し合いにより意見を聞き、理事長の月1回の往診の際には、現場の様子や職員の声を聞きたいという積極的な姿勢があり、職員の意見や思いを受け止める対応をしている。21年度は職員アンケートを行い、意見等を運営に反映させている。	

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とのミーティングや個別面談を行い、個々が向上出来るよう、状況の把握などに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会など積極的に通知し、参加を促している。また、参加後の報告を通じ、知識・情報を共有するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域毎のグループホーム部会があり、今後、参加の予定。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人・御家族からの聞き取りを元に、安心の確保に努めている。また、希望があれば体験入居などを利用し、御本人・御家族がスムーズに入居していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。 また、家族等の面会の際には、話しやすい場所を設けたり、話を傾聴する姿勢で接するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に見えた際、現在の状況やご希望を伺い、必要があれば、他のサービス(法人内居宅支援事業など)を紹介するなどしている。		

外部評価結果(グループホームサントクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは御本人にやって頂く事とし、御本人の“出来る力”を援助するよう努めている。また、自立度の低い方には、刺激となる様な会話や活動の機会を持てるよう努めている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の困難な御家族には、必要に応じ電話やメールを使って連絡を取る様にし、常に情報の交換に努めている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活のスタイルとなると、御家族の協力が必要となり、対応が困難な場面も見られる。が、御家族への依頼や、ホーム側の対応で可能な場合には、地域との関わりなどを通じて、本人の生活スタイルが継続出来るよう支援している。	知人等が面会に来たり、ご家族の協力を得て墓参りをしたり、行きつけの理美容院へ行ったりとこれまでの暮らしが継続出来るよう対応している。ご家族と連携を図り、利用者にも、ご家族にとっても不都合の無いよう配慮しながら支援している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えや、買い物などの際のグループ分け等を工夫し、孤立しない、且つ関わり過ぎない関係が築ける様な支援に努めている。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	左記の様な関係が築ける様、努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人・御家族からの聞き取りを元に、本人本位の生活が営めるよう支援している。	利用者やご家族から聞き取りにより、思いや意向を把握して、利用者の出来る力を援助するよう努め、事業所で豊かに暮らしたいと思えるために刺激となる、会話や活動の機会を多くするよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族からの聞き取りを元に、毎日の生活の中に取り入れられるものは取り入れ、今までの生活環境と大きく変わらないよう対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、個人記録、申し送りなどから心身の状況を把握し、趣味や役割として出来ること、また、目標などを設け対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的及び臨時でカンファレンスを行い、入居者本位のケアプランが作成できるよう話し合っている。また、御家族とは随時連絡をとっており、プラン作成時には同意(サイン)を頂いている。	利用者のケア担当者が中心となり、全国グループホーム協会ケア研究会の様式を活用し、フェースシートを基に見直しシートを作成し、課題分析を行い、介護計画の原案を作成している。介護計画は概ね3か月を目安にして、解決すべき課題は2～3に絞って、ご家族には分かり易く、職員には共有化や記憶し易い数としている。3か月毎に見直しをすると共に、心身の状況に応じて臨機応変の対応をしている。課題分析から評価まで分かり易い流れになっていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のちょっとした心身の気付きも記録するよう心掛けている。また、簡潔で読み易い文章を心掛け、スタッフ間の情報が共有出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を利用し、自主事業として“一時預かり”を受け入れたり、近隣の高校より、“就業体験”を受け入れるなど、事業所として様々なニーズに対応すべく、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩・買い物の際、近隣住民と顔馴染みが生まれ、花や野菜を頂くなど、ホームの存在が知られてきている。		

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(主治医)は、御本人・御家族と相談の上選定し、適切な医療が受けられるよう報告・連絡・相談をしながら支援を行っている。	利用者やご家族の希望する医療機関となっており、通院等の付き添いは原則としてご家族になっているが、都合に応じて職員が代行(有料・月額)することもある。急変時等もかかりつけ医やご家族と相談して対応し、利用者やご家族の思いに沿った適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、情報、気付き等を伝え、適切な受診や治療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各かかりつけ医や協力医療機関の医師との連絡を密にし、早期発見・早期治療、早期の退院に向けた関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、ターミナルケアのあり方について、早い段階から御家族等と話し合い、適切な対応が行えるよう努めている。	重度化や終末期への対応は事業所としての指針があり、原則として、医療対応の大きい方は医療機関に依頼し、介護の重度化等に関しては事業所として対応することとしている。ご家族等とは早期に話し合いを持って、理解を得ながら、利用者が安心して納得した最後が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフが身に付けているとは言い難い。今後、取り組んで行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等を定期的に行い、全職員が適切な避難の方法を身に付けられるよう努めている。(夜間の訓練は、まだ実施していない)また、自治会との協力体制については、運営推進会議の中で検討中である。	消防署の指導を受けながら、年2回昼間想定訓練(通報・消火・避難誘導)を行い、さらに2回ほど、避難誘導訓練を行っている。自動通報装置等の防災設備、警備会社との契約など防災への備えは出来ている。地域との協力関係は今年12月頃移転の計画があるため、協力依頼はしてあるが、協定書の締結は検討中である。	夜勤者1名となる夜間が一番不安であるので、夜間想定訓練を年1回は実施することを期待します。2階のユニットの避難経路が階段であり、重度者も居るので、避難誘導のイメージトレーニングを頻度よく実施し、何時災害が発生しても対応できる力をつけると共に、安心して業務に専念できるようにすることを望みます。

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他人行儀にならず、且つ赤ちゃん言葉や教育的・支持的な言葉にならないよう、“安心出来る言葉遣い”、方言などを使った“馴染みのある言葉遣い”を意識するよう心掛けています。	誘導の声掛けを耳元でしたり、言葉遣いは過度に丁寧にならず、むしろ馴染みがあり、失礼にあたらない言葉を選びながら対応をし、一人ひとりの尊厳や誇りに配慮した介護をしている。又、契約書にも尊厳やプライバシーの確保は利用者の権利として明記している。個人の書類はドアの閉まるスタッフ室に保管され、個人情報の保護も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、自己決定・自己表現出来るように働き掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日が快適で、笑顔が多くみられる過ごし方を、日々考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身嗜みが出来るように、声掛け、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や郷土食、旬のものを献立に取り入れている。また、下拵から片付けまで、“出来る力”を活かして、入居者にも“食”に参加して頂けるような支援に努めている。 不定期ではあるが、外食の機会も設けている。	昼食は業者委託による弁当であるが、朝夕食は利用者の出来る範囲のお手伝いにより事業所で調理している。毎食の片付け、洗い物、食器拭きは利用者と共にしている。畑で採れた物、お裾分けの野菜等、旬の物、郷土食を献立に取り入れるなど、食が楽しみとなる工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量(自力摂取が困難な入居者の場合)を記録し、栄養のバランスが取れるよう支援している。		

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	“出来る力”を考慮し、ブラッシングや口腔内をガーゼで拭うなど、必要な援助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御本人の心身の状態に合わせ、声掛けやオムツ交換を行い、可能な範囲でトイレでの排泄を促している。また、昼夜でオムツ・パットの使用状況を変えるなど、個別の対応に努めている。	排泄はトイレ利用をケアの基本とし、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けをしている。パットやりハビリパンツを利用したり、早めの声掛けをして排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も併用しながら、食物繊維を摂って頂いたり、牛乳を飲んで頂くなどの取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かし、入居者には日替わりで入浴(週3回程度)して頂いている。時間については目安(10:00～11:00、13:30～15:30)があるが、入浴予定日には、“午前・午後”、“一人・複数”の希望を確認するなど、御本人の希望を可能な範囲で取り入れている。	入浴は毎日行われ、心身の状況により若干のずれはあるが、利用者はほぼ一日おきに利用している。時間等についても利用者の希望に沿った対応をし、利用者一人ひとりが思いのまま、楽しく入浴出来るよう取り組んでいる。入浴拒否者も居るが、メンタル面での反応であり、苦慮しながらも清潔保持との兼ね合いを考慮しつつ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の生活リズムやその時の状態に合わせ、休息、午睡を取って頂いている。また、御本人の家具や寝具を持ってきて頂き、安心出来る空間作りにも配慮している。活動と休息の状況を把握・報告し、主治医と相談の上、極力、眠剤に頼らない睡眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者のケア担当を中心として、服薬表を作成し把握に努めている。また、ケア担当は、服薬内容や副作用についての把握に努めるよう、指導を受けている。		

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人・御家族からの聞き取りや心身の状況を元に検討し、個別に役割や楽しみごとが見出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や散歩はもとより、学園祭、町民祭、運動会や地区の行事、外食や図書館、ドライブなど御本人の希望や社会との交流を目的とした日常的な外出の機会を設けている。	日々の買い物や散歩に出掛けたり、ウッドデッキや玄関先を利用して外気浴を行っている。各種の行事への参加、花見・紅葉狩り・観光地へのドライブ、外食や図書館への外出など、戸外に出て気分転換や五感の刺激となる機会を多く持つよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にて管理しており、必要に応じて(スタッフが同行し)金銭を使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の要望に合わせ、電話や手紙のやり取りなど、行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング壁面には季節に合わせて壁画を貼ったり、玄関に植物や入居者の作品を掲示したりと、居心地の良い空間作りに努めている。	リビングは季節に合わせた壁画やホーム新聞が飾られ、台所と一体のフロアーとなり、調理の音や匂いが感じられるようになっている。周辺は移動し易いように物は置かず、椅子とテーブルを配置してシンプルであるが暮らしている穏やかな雰囲気があった。黄色一色の壁面であるので、趣きのある絵画等を飾り、柔らかみのある空間作りをすることも一考かと思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング～洗面所～居室など、自由に行き来し、入居者によっては場所を移動して、気の合った者同士で談笑するなど、思い思いに過ごされている。		

外部評価結果(グループホームサentakローズ)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭環境や生活環境にもよるが、家具、寝具、整理棚、壁飾りなどは統一せず、御本人の使い慣れた物、希望の物で揃えるなど、“居心地”を重視している。	クローゼットがあり、利用者の衣類等が整理されて収納されていた。タンス・写真・時計・カレンダー・壁には新聞の切り抜きが貼られるなど利用者の思い思いの部屋作りが出来ていた。窓からは隣家の草木、工場・住宅、町の様子が眺められ、住み慣れた景色の中で暮らしていることが味わえるよう配慮されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段以外、建物内はフラット(バリアフリー)になっており、通常、入居者の移動に支障は無い。また、整理・整頓の際には、可能な範囲で入居者にも手伝って頂き、“安全の確保”“出来る力の発揮”に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフのスローガンを「笑顔・安心・安全・家庭的」とかけ、共有の理念を持っている。	安らぎと喜びのある毎日、安心と共に尊厳のある暮らし、住みなれた土地で自立して暮らす、という法人の理念を実現しつつ、事業所独自の理念を職員アンケートの中から職員と共に作り上げ、機会ある毎に共有化を図りながら、日々実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、散歩などの日々の交流はもとより、運営推進会議などを通じ、地域行事や近隣の学校の学園祭などへの参加なども行っている。	自治会に加入し、町や地区の行事に参加すると共に、保育園や近隣の高校の行事に招待されたり、日々の散歩や買い物の際の挨拶や野菜等のお裾分けを頂くなど地域との親しいつきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ出てゆく機会を増やし、交流を図ることで事業所の活動を知って頂けるよう努めている。また、運営推進会などでも議題にあがっており、今後の活動に取り入れて行きたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催の都度「活動報告」を行い、意見・要望を伺い、可能な範囲で取り入れている。また、入居者の近況や行事の様子などを書いたホーム新聞を配布し、「今後も続けて欲しい」などのご要望を頂いている。	地域や行政の参加の下、21年度は3回開催し、評価や活動状況を報告し、行事の際の利用者の素直な思いや様子を伝えるホーム新聞を配付して、事業所のありのままを理解して頂けるよう努めている。意見や要望は少ないが、常に真摯に受け止め、サービス向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に数回程度行政に伺い、担当者との情報交換を行っている。	町にグループホームが当事業所だけであり、行政からの期待もあり、事業所も積極的に行政との接触を行い、良好な関係を作っている。地域密着であるので、町だけで定員18名の利用者を常に満たすことが困難な場合もあるので、さらなる相互の理解と協力関係を築くことを望みます。	

外部評価結果(グループホームサントクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠など、防犯上の対策以外、身体拘束は行っていない。これについても、外出の機会を増やしたり、夏場の暖かい日には玄関を網戸にするなど、出来るだけ開放するよう努めている。また、対応の困難な方についても、スタッフで話し合い、身体拘束に当たらないケアを心掛けている。	利用者の人権や尊厳を守ることがケアの基本であることを職員の共有認識とし、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。骨折、再入院のリスクを考慮しながら、拘束のないケアに辛抱強く取り組んでいるケースのあることを伺い、利用者の尊厳や誇りの保持への配慮の大きさが感じられた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の身体状況や置かれている状況についての把握に努め、対処方法などをスタッフ全員で考え、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、ご家族や関係者と話し合う場を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来る限り意見・要望を伺い、理解と納得の上で入居して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族面会時には、極力、スタッフから声を掛ける様努めている。また、入居の際、「重要事項説明書」記載の外部の窓口の紹介・説明を行うなどしている。また、運営推進会議などにおいても、意見を求めている。	行事の様子を伝えているホーム新聞の年5回の発行や面会時の十分な説明、ケアプラン等の随時の連絡などにより、ご家族との信頼関係を築いて、意見や要望を言い易い環境作りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、及び個別の面談の機会を設け、意見・提案を聞くように努めている。	職員会議やミーティングの際に管理者に意見や要望を言える機会を設けている。法人としても年1回契約更新時の話し合いにより意見を聞き、理事長の月1回の往診の際には、現場の様子や職員の声を聞きたいという積極的な姿勢があり、職員の意見や思いを受け止める対応をしている。21年度は職員アンケートを行い、意見等を運営に反映させている。	

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とのミーティングや個別面談を行い、個々が向上出来るよう、状況の把握などに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会など積極的に通知し、参加を促している。また、参加後の報告を通じ、知識・情報を共有するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域毎のグループホーム部会があり、今後、参加の予定。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人・御家族からの聞き取りを元に、安心の確保に努めている。また、希望があれば体験入居などを利用し、御本人・御家族がスムーズに入居していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。 また、家族等の面会の際には、話しやすい場所を設けたり、話を傾聴する姿勢で接するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に見えた際、現在の状況やご希望を伺い、必要があれば、他のサービス(法人内居宅支援事業など)を紹介するなどしている。		

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは御本人にやって頂く事とし、御本人の“出来る力”を援助するよう努めている。また、自立度の低い方には、刺激となる様な会話や活動の機会を持てるよう努めている。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の困難な御家族には、必要に応じ電話やメールを使って連絡を取る様にし、常に情報の交換に努めている。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活のスタイルとなると、御家族の協力が必要となり、対応が困難な場面も見られる。が、御家族への依頼や、ホーム側の対応で可能な場合には、地域との関わりなどを通じて、本人の生活スタイルが継続出来るよう支援している。	知人等が面会に来たり、ご家族の協力を得て墓参りをしたり、行きつけの理美容院へ行ったりとこれまでの暮らしが継続出来るよう対応している。ご家族と連携を図り、利用者にも、ご家族にとっても不都合の無いよう配慮しながら支援している。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えや、買い物などの際のグループ分け等を工夫し、孤立しない、且つ関わり過ぎない関係が築ける様な支援に努めている。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	左記の様な関係が築ける様、努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人・御家族からの聞き取りを元に、本人本位の生活が営めるよう支援している。	利用者やご家族から聞き取りにより、思いや意向を把握して、利用者の出来る力を援助するよう努め、事業所で豊かに暮らしたいと思えるために刺激となる、会話や活動の機会を多くするよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族からの聞き取りを元に、毎日の生活の中に取り入れられるものは取り入れ、今までの生活環境と大きく変わらないよう対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、個人記録、申し送りなどから心身の状況を把握し、趣味や役割として出来ること、また、目標などを設け対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的及び臨時でカンファレンスを行い、入居者本位のケアプランが作成できるよう話し合っている。また、御家族とは随時連絡をとっており、プラン作成時には同意(サイン)を頂いている。	利用者のケア担当者が中心となり、全国グループホーム協会ケア研究会の様式を活用し、フェースシートを基に見直しシートを作成し、課題分析を行い、介護計画の原案を作成している。介護計画は概ね3か月を目安にして、解決すべき課題は2～3に絞って、ご家族には分かり易く、職員には共有化や記憶し易い数としている。3か月毎に見直しをすると共に、心身の状況に応じて臨機応変の対応をしている。課題分析から評価まで分かり易い流れになっていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のちょっとした心身の気付きも記録するよう心掛けている。また、簡潔で読み易い文章を心掛け、スタッフ間の情報が共有出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋を利用し、自主事業として“一時預かり”を受け入れたり、近隣の高校より、“就業体験”を受け入れるなど、事業所として様々なニーズに対応すべく、多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩・買い物の際、近隣住民と顔馴染みが生まれ、花や野菜を頂くなど、ホームの存在が知られてきている。		

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(主治医)は、御本人・御家族と相談の上選定し、適切な医療が受けられるよう報告・連絡・相談をしながら支援を行っている。	利用者やご家族の希望する医療機関となっており、通院等の付き添いは原則としてご家族になっているが、都合に応じて職員が代行(有料・月額)することもある。急変時等もかかりつけ医やご家族と相談して対応し、利用者やご家族の思いに沿った適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、情報、気付き等を伝え、適切な受診や治療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各かかりつけ医や協力医療機関の医師との連絡を密にし、早期発見・早期治療、早期の退院に向けた関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、ターミナルケアのあり方について、早い段階から御家族等と話し合い、適切な対応が行えるよう努めている。	重度化や終末期への対応は事業所としての指針があり、原則として、医療対応の大きい方は医療機関に依頼し、介護の重度化等に関しては事業所として対応することとしている。ご家族等とは早期に話し合いを持って、理解を得ながら、利用者が安心して納得した最後が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全てのスタッフが身に付けているとはいえない。今後、取り組んで行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等を定期的に行い、全職員が適切な避難の方法を身に付けられるよう努めている。(夜間の訓練は、まだ実施していない)また、自治会との協力体制については、運営推進会議の中で検討中である。	消防署の指導を受けながら、年2回昼間想定訓練(通報・消火・避難誘導)を行い、さらに2回ほど、避難誘導訓練を行っている。自動通報装置等の防災設備、警備会社との契約など防災への備えは出来ている。地域との協力関係は今年12月頃移転の計画があるため、協力依頼はしてあるが、協定書の締結は検討中である。	夜勤者1名となる夜間が一番不安であるので、夜間想定訓練を年1回は実施することを期待します。2階のユニットの避難経路が階段であり、重度者も居るので、避難誘導のイメージトレーニングを頻度よく実施し、何時災害が発生しても対応できる力をつけると共に、安心して業務に専念できるようにすることを望みます。

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他人行儀にならず、且つ赤ちゃん言葉や教育的・支持的な言葉にならないよう、“安心出来る言葉遣い”、方言などを使った“馴染みのある言葉遣い”を意識するよう心掛けています。	誘導の声掛けを耳元でしたり、言葉遣いは過度に丁寧にならず、むしろ馴染みがあり、失礼にあたらない言葉を選びながら対応をし、一人ひとりの尊厳や誇りに配慮した介護をしている。又、契約書にも尊厳やプライバシーの確保は利用者の権利として明記している。個人の書類はドアの閉まるスタッフ室に保管され、個人情報の保護も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、自己決定・自己表現出来るように働き掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日が快適で、笑顔が多くみられる過ごし方を、日々考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身嗜みが出来るように、声掛け、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や郷土食、旬のものを献立に取り入れている。また、下拵から片付けまで、“出来る力”を活かして、入居者にも“食”に参加して頂けるような支援に努めている。 不定期ではあるが、外食の機会も設けている。	昼食は業者委託による弁当であるが、朝夕食は利用者の出来る範囲のお手伝いにより事業所で調理している。毎食の片付け、洗い物、食器拭きは利用者と共に行っている。畑で採れた物、お裾分けの野菜等、旬の物、郷土食を献立に取り入れるなど、食が楽しみとなる工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量(自力摂取が困難な入居者の場合)を記録し、栄養のバランスが取れるよう支援している。		

外部評価結果(グループホームサンタクロース)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	“出来る力”を考慮し、ブラッシングや口腔内をガーゼで拭うなど、必要な援助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御本人の心身の状態に合わせ、声掛けやオムツ交換を行い、可能な範囲でトイレでの排泄を促している。また、昼夜でオムツ・パットの使用状況を変えるなど、個別の対応に努めている。	排泄はトイレ利用をケアの基本とし、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けをしている。パットやりハビリパンツを利用したり、早めの声掛けをして排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も併用しながら、食物繊維を摂って頂いたり、牛乳を飲んで頂くなどの取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かし、入居者には日替わりで入浴(週3回程度)して頂いている。時間については目安(10:00～11:00、13:30～15:30)があるが、入浴予定日には、“午前・午後”、“一人・複数”の希望を確認するなど、御本人の希望を可能な範囲で取り入れている。	入浴は毎日行われ、心身の状況により若干のずれはあるが、利用者はほぼ一日おきに利用している。時間等についても利用者の希望に沿った対応をし、利用者一人ひとりが思いのまま、楽しく入浴出来るよう取り組んでいる。入浴拒否者も居るが、メンタル面での反応であり、苦慮しながらも清潔保持との兼ね合いを考慮しつつ対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の生活リズムやその時の状態に合わせ、休息、午睡を取って頂いている。また、御本人の家具や寝具を持ってきて頂き、安心出来る空間作りにも配慮している。活動と休息の状況を把握・報告し、主治医と相談の上、極力、眠剤に頼らない睡眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者のケア担当を中心として、服薬表を作成し把握に努めている。また、ケア担当は、服薬内容や副作用についての把握に努めるよう、指導を受けている。		

外部評価結果(グループホームサentakローズ)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人・御家族からの聞き取りや心身の状況を元に検討し、個別に役割や楽しみごとが見出せるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物や散歩はもとより、学園祭、町民祭、運動会や地区の行事、外食や図書館、ドライブなど御本人の希望や社会との交流を目的とした日常的な外出の機会を設けている。	日々の買い物や散歩に出掛けたり、ウッドデッキや玄関先を利用して外気浴を行っている。各種の行事への参加、花見・紅葉狩り・観光地へのドライブ、外食や図書館への外出など、戸外に出て気分転換や五感の刺激となる機会を多く持つよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にて管理しており、必要に応じて(スタッフが同行し)金銭を使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の要望に合わせ、電話や手紙のやり取りなど、行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング壁面には季節に合わせて壁画を貼ったり、玄関に植物や入居者の作品を掲示したりと、居心地の良い空間作りに努めている。	リビングは季節に合わせた壁画やホーム新聞が飾られ、台所と一体のフロアーとなり、調理の音や匂いが感じられるようになっている。周辺は移動し易いように物は置かず、椅子とテーブルを配置してシンプルであるが暮らしている穏やかな雰囲気があった。黄色一色の壁面であるので、趣きのある絵画等を飾り、柔らかみのある空間作りをすることも一考かと思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング～洗面所～居室など、自由に行き来し、入居者によっては場所を移動して、気の合った者同士で談笑するなど、思い思いに過ごされている。		

外部評価結果(グループホームサentakローズ)

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭環境や生活環境にもよるが、家具、寝具、整理棚、壁飾りなどは統一せず、御本人の使い慣れた物、希望の物で揃えるなど、“居心地”を重視している。	クローゼットがあり、利用者の衣類等が整理されて収納されていた。タンス・写真・時計・カレンダー・壁には新聞の切り抜きが貼られるなど利用者の思い思いの部屋作りが出来ていた。窓からは隣家の草木、工場・住宅、町の様子が眺められ、住み慣れた景色の中で暮らしていることが味わえるよう配慮されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段以外、建物内はフラット(バリアフリー)になっており、通常、入居者の移動に支障は無い。また、整理・整頓の際には、可能な範囲で入居者にも手伝って頂き、“安全の確保”“出来る力の発揮”に努めている。		